

## 213号と私 インタビュー相手まで

B3 易鵬 (エキホウ)

### 1. 213号の紹介

私にとって大切なコミュニティーが213号だ。これは母国の東北大学でのルームの番号だ。東北大学の寮は1人部屋ではなく、6人一緒に住んでいる部屋だ。6人の異なるところから来た若い女の子たちは大学時代の4年間、同じ部屋に住めるのは珍しい縁だと思う。何か困ることがあったら必ず相談して元気がいっぱい出てくる。おもしろいことがあったら一緒に笑って快樂をシェアする。

李さんと金さんは性格が明るい。エンさんは私と同じ南方から来た。今はリーさんと一緒に韓国で留学しているところだ。ブーさんは来年の3月に日本鹿児島大学へ留学する予定があるそうだ。金さんは半年前、韓国の大学で留学したことがある。うちの寮は「留学軍団」らしい存在だなと思う。

1年生と2年生の時、みんなは暇があるから、週末になると一緒に外食をしてカラオケをするのは213号のルールになっていく。夜になると、私たちは平日に何かおもしろいことがあるかを話しながら寝る。誰か誕生日になると、他の5人が秘密にケーキを準備する。毎日幸せな大学生活を楽しんでいる。

私は18歳の時、ルームメートが誕生日のソングを歌ってくれて、ソングのリズムが空気の中で流して、うれしかった。家から遠くの町に1人で生活し勉強している私にとって、彼女たちは兄弟のような人だ。大学時代彼女たちのルームメートを会うのがラッキーだと思う。私の年齢が彼女たちよりちょっとしたで、ずっとお世話になってくれた。日本へ来てから二か月ぐらい経って、彼女たちをよく思い出して懐かしいと感じる。卒業した後でいつか会えるかをだれでも知らない。今、これ珍しい縁を大切にしたいと思う。これは私にとって大切なコミュニティーだ。

### 2. インタビュー相手

東北大学での6人部屋に、必ず一人のリーダーを設定する。中国語で「寝室長」と呼ばれる。リーダーというより、家長といったほうがもっとぴったりだと思う。さまざまなクラスや学校活動情報をルームメートに伝える、申し込み方の説明から、ルームメートの世話、部屋の掃除、全員の光熱代を集めて月ごと払いまで、リーダーの義務になっている。私はうちの第一人の寝室長のブーさんをインタビュー相手として交流したいと思う。

彼女を思い出して、六月のさんさんとした日光を浴びるようなあたたかいと感じる。笑うとき目が宝石のようなピカピカして、周りの人が見ると、耐えずに気持ちがよくなるはずだ。私にとって、ブーさんはルームメイトだけでなく、パートナーでもある。一年生のとき、わたしたちは中国のレンノーボ会社が開催した「クレズなDさん」という運営コンテストに参加した。広告を撮影から、カッシュフーズの相談、モデルへの誘い、運営方案のスライドの作成まで、あの一週間ぐらいブーさんと充実で過ごした。非常に大変だったけれども、うれしかった。最後の決戦の日に、すばらしい運営プラン賞をもらい、レンノーボ会社の東北地方での法人代表者が褒められた。彼女と一緒に、大学での重要な記憶を描いた。

私が日本へ来てから、平日の授業が多いので、彼女との連絡がだんだん少なくなってしまい、懐かしかったと思う。だから、今度、ブーさんはインタビュー相手として交流したいと思う。

### 3. インタビューの結果

12月7日の金曜日の夜、ネットでブーさんとチャットした。ルームメイトの具合や最近の状態などから、うちの日本語学部での面白いこと、もうすぐ期末試験なので試験準備まで、いろいろ話した。ブーさんが来年の3月に鹿児島大学留学の予定があるので、私に日本でのこの二か月の生活も聞いた。

私：おひさ～最近なんかルームメイトのあなたたちをよく思い出す、なつかしいなあ。

ブーさん：ただ一年間速く過ごすよ、戻ったら一緒に外食に行くよ。ところで、日本での留学生活うまくいってる？

私：うん～一人部屋の寮はいまいちだった。自分で料理を作る、洗濯をする、掃除をする、週二回買い物に行くってさあ、家庭主婦になるって思う。やっぱり中国での大学生活のほうがのんびりしてると思う。

ブーさん：中国にいるとき、213号に対する愛情がそんなに深く見えないよ、週一回ほどのルーム掃除もよく忘れちゃったし、自分が忙しいの言い訳を言い、外食に熱心を持ってなさそうだよ。まさか、一人暮らしがやはりさびしがって、みんな一緒の生活がいいと思う？

私：確かにそうだよ。みんな一緒のとき、誰かが気持ちよくないので、けんかもあるんだけど、二三日経ったら無事になるはずだ。特に私が掃除など忘れちゃうとき、ほかの人が掃除してくれて、ありがたい気持ちがいっぱい出てくる。けんかがたまにあっても、みんなが仲良く住むのがうれしかった。

ブーさん：そうね。私たちに6人は出身が異なるし、趣味や性格なども全然似てないし、なぜ仲良くなるのはたまに好奇心をもっているけれども、とにかく珍しい縁だと思う。

私：私が帰国するとき、みんなはもう四年生になって、就職とか大学院に進むとか、とにかく自分の事情に囲まれて、一緒に遊ぶ機会が少なくなるはずだ。ときどきこういうのを思い出すと、絶えずに悲しいと感じる。

ブーさん：なんか、今、易が日本にいる、リーさんと袁さんが韓国にいる、金さんが卒業してすぐにイタリアへ行くつもりだ、私も来年鹿児島大学へいく。なんか、みんながこういうバラバラになるまえに、一回ほど一緒に話してもいい遊んでもいい機会があったらいいなあ。易、ところで、これから残り八か月、貴重な日本の日々だよ、有効に過ごしてください。

私：うん！帰るならみんなぜひ「留学生活成長史パーティー」をするよ。

彼女の話聞いて、使命感を出した。日本の秋田大学で留学している私は、213号だけでなく、うちの東北大学を代表する。彼女たちは、私が日本語をうまく話せるように期待している。いくたの困難があっても、いくらホームシックになっても、いつかまで日本語が流暢に話せるように、これから頑張りたいと思う。

#### 4. 213号と私

ブーさんが話した通り、私は中国にいるとき、「213号に対する愛情がそんなに深く見えない。」「週一回ほどのルーム掃除も忘れちゃったし、自分が忙しいの言い訳を言い、外食に熱心をもってなさそう。」まで言わないけれども、自分の事情に囲まれて皆と一緒にするときそんなに多くない。日本へきてから、学科内の学生は自分の好みによって授業が選ばれるので、異なる授業を取れる学生も異なるとわかってきた。だから、日本の学生の頭にクラスとかと言う小団体の概念がない。中国の学生より独立性が強いと思う。中国の大学では、学生全員で校内の寮で住んでいるし、両親からの仕送りで生活する人が多いので、バイトをしている人が少ないと思う。それで、社会と接する機会があまりない、自分が就職するために事前に就職準備の意識もない。大学二年生の後半になってから、みんなが未来の道を探し初める。海外留学をするし、大学院生になるために院生入学試験準備をするし、学習の圧力も重くなる。

うちのルームの213号を例としてあげる。朝7時ごろおきて、一日の忙しさを始める。授業は午後の5時40分に終わる。晩ごはんを食べた後で、自習室で一日勉強した文法とか復習する。毎日同じことをするように大学生活を過ごしている。時間無駄までを言わないけれども、ことばを勉強する人たちにとってやはり実践は進歩が取れやすい方法だと思う。特に日本へきてから、これ実践の重要性を強く感じる。

また、うちのルームの213号をこれからこういうふうに生きたい。

うちの6人が自分の独立性を強くなるように努力するべきだを思う。皆一緒に寮生活は確かに団体精神を育つにいいと思うけれども、自立性も自分自身にとって欠かせないものである。中国の若者は自立性が足りないといわれるのを対して、日本の若者は小さいごろ

から両親が独立性の培養を重視されている。若者は国家の未来建設を担う人たちである。これも 213 号の私たちだけではなく、中国の若者が欠かせないものだと思う。

## 5. クラスに対する感想

今学期の多文化コミュニケーションの授業に対する感想、一番深いのは多くの友達ができる授業だ。コミュニケーションをしているうちに実際のコミュニケーション力が上がれると思う。しかし、今学期のレポートテーマは「自分にとって大事なコミュニティ」しかなかった。このテーマは確かにコミュニケーションに関するテーマだが、授業で採用されたみんな相互評価の形式で、自分が話す機会や相手との言葉での実際の交流があまり多くないと感じる。グループの「交流散歩」がおもしろかった。本当にコミュニケーションの相手といろいろ話せる。

同じグループの二人の韓国のグループメンバーが来年の 3 月に帰国するので、いろいろ韓国について聞いた。この授業でグループは変わらないので一学期中同じの友達と話せる。韓国の友達もできた。

私はこの授業で最大な収穫が韓国についてもっと深く了解した。韓国語に対する興味も深くなった。もし半年以後自分の日本語がだんだんよくなってから、余裕があれば、周りの韓国の友達を頼んで韓国語を勉強したい。この三ヶ月に、多くの外国人の友達をでき、やはり若いうちに多く外国語を勉強したほうが良いと思う。とにかく楽しかった三ヶ月だと思う。